

DPRI Award 設立の趣旨および

第 11回 DPRI Award 受賞者決定の経緯

研究教育担当副所長 境 有紀

防災研究所は、国内外で発生する自然災害を研究対象とすることから、国際交流協定の締結、国際共同研究、海外災害調査や留学生・海外共同研究者の受け入れなどの国際的な活動にも積極的に取り組んで参りました。平成22年度に認定され開始した共同利用・共同研究拠点は、令和 4 年度から3期目に入っています。また、防災研究所が事務局を務める世界防災研究所連合(GADRI)は令和5年3月に第6回世界防災研究所サミットを開催いたしました。このように防災研究所は頻発する国内外での自然災害に備えるための国際防災研究拠点として、その地位を確立するために、様々な新しい取り組みを推進しています。

これらの一環として平成23年3月に「京都大学防災研究所国際表彰規程」が制定され、DPRI Award が設立されました。その表彰の要件は

- 1) 防災研において、客員教員や共同研究者などとして滞在し、セミナーや共同研究などを実施し、防災研の研究教育に成果を上げた方
- 2) 防災研が主催する研究集会等において、基調講演、招待講演等を務め、又は企画運営に携わり、防災研の活動に貢献した方
- 3) 防災研が実施する国際共同研究及び現地調査等において貢献した方となっております。

これまでの授与実績は以下の通りです。

- ・ 第 1 回(平成 25 年度):金森博雄博士(カリフォルニア工科大学名誉教授)
- ・ 第 2 回(平成 26 年度):フランシスコ・サンチェズセスマ博士(メキシコ国立自治大学教授)
- ・ 第 3 回(平成 27 年度): キース・ハイペル博士(ウォータールー大学教授)
- ・ 第 4 回(平成 28 年度): ミシェル・ジャボイエドフ博士(ローザンヌ大学教授)

および国際応用システム分析研究所(IIASA)リスク・レジリエンスプログラム

- ・ 第 5 回(平成 30 年度): ジョン・グレッグ・アンダーソン博士(ネバダ大学リノ校教授)
- ・ 第 6 回(令和元年度): アンドリュー・コリンズ博士(ノーサンブリア大学教授)
- ・ 第 7 回(令和 2 年度): 陳亮全(Liang-Chun CHEN)博士(台湾国立防災救助技術センター元センター長)
- ・ 第 8 回(令和 3 年度): ジェームズ・デニス・ゴルツ博士(コロラド大学ボルダー校客員研究員)
- ・ 第 9 回(令和 4 年度): ビクトール・マヌエル・クルス・アティエンツァ博士(メキシコ国立自治大学教授)
- ・ 第 10 回(令和 5 年度): ピエー=イーヴ・バード博士(グルノーブル・アルプ大学地球科学研究所上級研究員)

今回、令和 6 年度の国際表彰について、令和 7 年1月に防災研究所のサマダール准教授から推薦があり、表彰選考委員会で慎重に審議しました。その結果、メキシコ国立自治大学地理学研究所教授の Irasema Alcántara-Ayala(イラセマ・アルカンタラ=アヤラ)博士に対し、第 11 回の防災研究所国際表彰 DPRI Award の「研究教育業績賞」の受賞者として所長に推薦することを決定いたしました。その後、所長の承認を得、これを教授会に諮り承認されました。

イラセマ・アルカンタラ=アヤラ博士は、1993 年にメキシコ国立自治大学(UNAM)を卒業後、1997 年にロンドン大学キングス・カレッジにて博士号を取得されました。その後、マサチューセッツ工科大学やジュネーブ大学(スイス)を経て、2000 年に UNAM の助教授、2005 年には教授に就任され、現在に至っています。この間、2008 年から 2012 年まで同大学地理研究所の所長を務められたほか、2000 年からはメキシコ国立防災センター(Cenapred)の共同研究者としても活動されています。

博士の専門は、地形学、地すべり、災害リスク、脆弱性分析、防災の地理学、そして、災害リスクと災害の法医学調査に関する統合研究で、特にリスクの社会的構築と災害脆弱性の根本原因の理解を中心に、防災研究の推進に尽力してきました。京都大学防災研究所(DPRI)においては、2017 年から 2018 年にかけて 2 度客員教授を

務められたほか、世界防災研究所連合(GADRI)の創設メンバーとしても尽力されています。

これまでに発表された 200 本以上の論文は、地理学、環境科学、公衆衛生、政策決定など幅広い分野を横断しており、災害リスクを理解するための包括的かつ学際的なアプローチを確立されました。また、共著である『災害の法医学的調査(FORIN)』では、災害の根本原因やリスク要因を調査するための理論・手法を提示されました。このアプローチは、ラテンアメリカ・カリブ海地域(LAC)をはじめ、アフリカ、欧州、アジアにおける地域レベルの災害リスク統合管理の実践に多大な影響を与えています。また、国際総合防災学会(IDRiM)等においても、社会、経済、政治構造を含めた多角的な視点から、統合的な知見を生み出す重要な指針となっています。

さらに博士は、GADRI 理事会における災害リスク軽減の議論において、女性や開発途上国の声を反映させる上で主導的な役割を果たしてこられました。メキシコ地形学会会長、国際地理学連合(IGU)、国際地滑りコンソーシアム(ICL)、国際地形学者協会(IAG)の副会長、国際科学会議(ISC)の災害リスク統合研究プログラム(IRDR)科学委員会委員といった要職を歴任し、その功績に対して、ルイジアナ州立大学のエブリン・プルーイット講演賞(2005 年)、TWAS Young Affiliate Fellow(2009 年)、ラテンアメリカ・カリブ海諸国若手科学者賞(2011 年)など、数々の権威ある賞が授与されています。

防災研究所における災害脆弱性の研究推進、防災におけるジェンダー視点の統合、そして GADRI を通じたネットワーク構築など、アルカンタラ＝アヤラ博士による多大な貢献は、当研究所の国際的な学際研究を牽引し、その存在感を世界に知らしめるものとなりました。これまでの多大なるご貢献に深く感謝申し上げますとともに、終身称号である「DPRI Fellow」として、今後とも本研究所の研究・教育に対し、大所高所よりご指導・ご助言を賜れば幸いです。